

解答は、すべて答案用紙に記入して必ず提出してください。

# 1 級 — I

## 簿記検定試験 ステップⅢ財務会計 問題用紙

### 総合答練 ②

(制限時間 45 分)

### 日商簿記 1 級講座

#### 受験者への注意事項

1. 答案用紙は、持ち帰りできませんので必ず提出してください。持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
2. 答えは定められたところにていねいに書いてください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンを使用してください。

1 級

— I

答案用紙

簿記検定試験  
ステップⅢ財務会計

総合答練 ②

(制限時間 45分)

日商簿記1級講座

受験者への注意事項

1. 答案用紙は、持ち帰りできませんので必ず提出してください。持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
2. 答えは定められたところにていねいに書いてください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンを使用してください。

**問題**(25点)

日商商事株式会社の×20年3月期に係る下記の資料にもとづき、**問1** 答案用紙に掲げる貸借対照表を作成するとともに、**問2** 答案用紙に掲げる損益計算書(一部)を作成しなさい。

**【解答上の注意】**

1. 計算上生じる端数については、計算の都度、千円未満四捨五入とする。ただし、棚卸資産の単価計算はこの限りではない。
2. 税金の計算と税効果会計は無視する。
3. 直物為替相場は、1ドル当たり、前期末100円、当期末90円である。
4. その他資産とその他負債は、出題の便宜上入れたものである。また、貸借対照表の( )はすべて埋まるとは限らない。

**【資料Ⅰ】**

決算整理前残高試算表		(単位：千円)	
現 金 預 金	137,970	買 掛 金	9,500
売 掛 金	10,000	そ の 他 負 債	74,000
繰 越 商 品	10,500	貸 倒 引 当 金	250
積 送 品	8,700	建 物 減 価 償 却 累 計 額	22,500
建 物	75,000	備 品 減 価 償 却 累 計 額	14,706
備 品	?	社 債	224,005
土 地	100,000	資 本 金	110,000
その他有価証券	21,000	資 本 準 備 金	20,000
関係会社株式	6,000	その他資本剰余金	11,500
社債発行費	6,000	利 益 準 備 金	5,000
その他資産	159,575	任 意 積 立 金	37,500
仕 入	44,000	繰 越 利 益 剰 余 金	16,294
販売費及び一般管理費	9,000	新 株 予 約 権	?
社債利息	7,500	売 上	69,000
支払利息	2,000	積 送 売 上	9,990
		受 取 利 息	500
		受 取 配 当 金	2,500
	× × ×		× × ×

**【資料Ⅱ】 決算整理事項等**

1. 商品の評価は、先入先出法によっている。期首商品手許棚卸数量は、1,400個、当期商品仕入数量は、6,400個(仕入総額51,200千円)であり、期末商品帳簿棚卸数量は、手許商品1,620個、積送品300個である。期末手許商品の正味売却価額は、@7,775円であるが、手許商品の中には、品質低下による店ざらし品(商品に含める)50個が含まれており、この商品の正味売却価額は@4,525円まで低下している。なお、積送品から棚卸減耗費・商品評価損は生じていない。

また当社では、前期より一部商品について委託による販売を行っている。積送される商品は、当期に外部から仕入れたものであり、積送時に仕入勘定から積送品勘定に振り替え、決算時に売上原価分を積送品勘定から仕入勘定に振り戻す記帳方法(期末一括法)を採用している。期首の手許商品からは積送されない。当期の積送品の状況は、次の通りである。

期首積送品棚卸数量 200個                      当期積送品販売数量 800個(下記未処理事項を除く)  
 当期商品積送数量 900個

委託販売については、委託品を販売するつど、諸掛費を控除した差額を積送売上(借方は売掛金)として計上している。当期の決算手続中に、当期に積送した委託品の一部が、3月末日に売却された旨の仕切精算書(売上高 1,500千円、諸掛費 120千円、販売数量 120個)が到着したが、未処理となっていた。

2. 決算日現在、当社の当座預金出納帳と銀行発行の当座勘定照合表を照合したところ、以下の不一致の存在が判明した。

- |                            |           |
|----------------------------|-----------|
| (1) 売掛金の当座振込みの当社への通知漏れ     | 2,000 千円  |
| (2) 買掛金支払いのために振り出した小切手の未取付 | 3,000 千円  |
| (3) 未渡小切手                  |           |
| ① 買掛金支払いのための小切手            | 1,000 千円  |
| ② 期中(2月)に購入した備品の支払いのための小切手 | 10,000 千円 |
| (4) 借入金利息の自動引落しの未処理分       | 500 千円    |

3. 社債は、前期首に額面総額 250,000 千円(期間 5 年、利率年 3%、利払日は毎年 3 月末日)を割引発行したものである。額面金額と発行価額の差額については、毎期末に償却原価法(利息法)を適用している。実行利率は、年 6% である。試算表中の社債利息は、当期支払額である。また、社債発行費は、発生額を繰延資産として計上しているが、社債の期間内に每期均等額の償却を実施している。

4. 売掛金の中には、当期 3 月 1 日に発生した \$ 15,000 の外貨建売掛金 1,425 千円が含まれている。

5. 固定資産の内訳は、以下のとおりである。

種 類	取得原価	残存価額	償却方法	備 考
建 物	75,000 千円	7,500 千円	旧定額法	耐用年数 30 年
備 品				
{ 期 首 分	30,000 千円	—	200% 定率法	耐用年数 7 年、償却率 0.286、保証率 0.0868
{ 期中(2月)取得分 (月割計算による)	10,000 千円	—	200% 定率法	耐用年数 4 年、償却率 0.5、保証率 0.125

6. 当期末、建物に減損の兆候が生じた。この建物は現在の市場価額で、34,000 千円で売却が可能である。今後、耐用年数到来まで使用し続けた場合の将来キャッシュ・フローは、合計 40,000 千円であり、これを現在価値に割引くと 33,460 千円となる。使用価値は各自適切な数値を選択すること。減損損失を認識する場合は、取得原価から直接控除すること。

7. 当期首に備品を期間 5 年のリースにより調達した。リース料は毎年 3 月 31 日に 1,705 千円を後払いするが、当該リース契約に関する処理は一切行っていなかった。なお、当該リース取引は所有権移転外ファイナンス・リース取引に該当し、減価償却は定額法により行う。また、リース資産は備品勘定に含めて表示する。

経済的耐用年数：7 年、見積現金購入価額：7,764 千円、当社の追加借入利率：年 3.5%、

リース料総額の割引現在価値が見積現金購入価額と一致する割引率：年 3.2%

8. 有価証券の内訳は、以下のとおり。

種 類	試算表の金額	期末時価
(1) その他有価証券として固定利付き A 社社債	15,000 千円	14,250 千円
(2) その他有価証券として B 社株式	6,000 千円	7,000 千円
(3) 関係会社株式(30%所有)	6,000 千円	なし

注 1 全部純資産直入法による。

注 2 (3)の関連会社の期末純資産は、10,000 千円である。

9. 権利行使されないまま、権利行使期限が到達した新株予約権 600 千円について、必要な処理を行う。

10. 売上債権期末残高に対して 2%の貸倒引当金を差額補充法で設定する。

11. 業績が悪化したため、任意積立金のうち 5,000 千円を取り崩す。

受講生  
番号

--	--	--	--	--	--

生年月日

氏名

×

(ココヲトジル)

×

ステップⅢ総合答練②・答案用紙

試験地(会議所名)	採点欄

1 級 ①

財務会計

問 1

貸借対照表

×20年3月31日

(単位：千円)

借方	金額	貸方	金額
現金預金 ( )		買掛金 ( )	
売掛金 ( )		( ) ( )	
貸倒引当金 (△ )		( ) ( )	
商品 ( )		社債 ( )	
建物 ( )		( ) ( )	
減価償却累計額 (△ )		その他負債	74,000
備品 ( )		資本金	110,000
減価償却累計額 (△ )		資本準備金	20,000
土地	100,000	その他資本剰余金	11,500
投資有価証券 ( )		利益準備金	5,000
関係会社株式 ( )		任意積立金	32,500
その他資産	159,575	繰越利益剰余金 ( )	
社債発行費 ( )		新株予約権 ( )	
( ) ( )		( ) ( )	
( )		( )	

受講生  
番号

--	--	--	--	--	--

生年月日

氏名

×

(コゴトジル)

×

ステップⅢ総合答練②・答案用紙

試験地(会議所名)	採点欄

1 級 ②

財務会計

問2

損益計算書(一部)

自 ×19年4月1日 至 ×20年3月31日

(単位：千円)

I 売上高			
1 一般売上高			
2 積送品売上高			
II 売上原価			
1 期首商品棚卸高			
2 当期商品仕入高			
合計			
3 期末商品棚卸高			
差引			
4 商品評価損			
売上総利益			
(中略)			
VII 特別損失			
1 減損損失			

財務会計<解答>○各2点 ●各1点

問1

貸借対照表

×20年3月31日

(単位：千円)

借方	金額	貸方	金額
現金預金 (●)	148,765	買掛金 (●)	10,500
売掛金 ( )	9,305	(未払金) (●)	10,000
貸倒引当金 (●)	△186	(リース債務) (●)	1,486
商品 (○)	13,873	社債 (○)	229,945
建物 ( )	58,750	(長期リース債務) ( )	4,777
減価償却累計額 (●)	△24,750	その他負債	74,000
備品 ( )	47,699	資本金	110,000
減価償却累計額 (●)	△21,453	資本準備金	20,000
土地	100,000	その他資本剰余金	11,500
投資有価証券 ( )	21,250	利益準備金	5,000
関係会社株式 (○)	3,000	任意積立金	32,500
その他資産	159,575	繰越利益剰余金 (●)	970
社債発行費 (●)	4,500	新株予約権 (○)	9,400
( ) ( )	( )	(その他有価証券評価差額金) (○)	250
	( 520,328 )		( 520,328 )

問2 (各1点×2個)

損益計算書(一部)

自×19年4月1日至×20年3月31日

(単位：千円)

I 売上高		
1 一般売上高	● 69,000	
2 積送品売上高	● 11,370	80,370
II 売上原価		
1 期首商品棚卸高		12,000
2 当期商品仕入高	● 51,200	
合計		63,200
3 期末商品棚卸高	● 14,400	
差引		48,800
4 商品評価損	● 527	49,327
売上総利益 (中略)		31,043
VII 特別損失		
1 減損損失	● 16,250	

## 財務会計<解説>(金額の単位：千円)

積送品のところで、若干読解力が求められる。問題文を読んで、どういった処理をしている・求められているのかをしっかりと把握すること。仕入総額と仕入数量が与えられることから、仕入単価さえ算出してしまえば、あとは通常先入先出法の計算原理に従い、期末数量を算出するだけである。

### 問 1

#### 1. 商品売買

##### (1) 未処理事項

(借)	売掛金	1,380	(貸)	積送売上	1,380	*1
-----	-----	-------	-----	------	-------	----

\*1 仕切精算書売上高 1,500 - 仕切精算書諸掛費 120 = 1,380

##### (2) 決算整理仕訳(一般販売+委託販売)(諸掛の処理は StepⅢ)

(借)	仕入	10,500	(貸)	繰越商品	10,500	
	繰越商品	12,960		仕入	12,960	*2
(借)	仕入	7,260	(貸)	積送品	7,260	*2

\*2 【図表-I】参照。

##### 【図表-I 売上原価の算定】

一般 (数量)		一般 (金額)	
期首	1,400 個	期首	10,500
	*3 5,280 個		*6 41,540
当期仕入	6,400 個	当期仕入	51,200
	900 個		*5 7,200
	1,620 個		*4 12,960
期末		期末	

  

積送 (数量)		積送 (金額)	
期首	200 個	期首	*8 1,500
	*7 920 個		7,260
当期積送	900 個	当期積送	7,200
	*7 180 個		*9 1,440
期末		期末	

\*3 差で算定(月初 1,400 個 + 仕入 6,400 個 - 期末 1,620 個 - 当期積送 900 個 = 5,280 個)

\*4 当期仕入 51,200 ÷ 6,400 個 (@8) × 期末 1,620 個 = 12,960

\*5 @8 × 積送 900 個 = 7,200

\*6 貸借差額

\*7 未処理になっていた、3月末日の仕切精算書を反映する。

\*8 期末一括法の場合、前T/Bの「積送品」勘定は、期首積送品残高 + 当期積送高の合計である。

したがって、期首積送品残高は、積送品勘定から「当期積送高」を差引いて差額で算出する。

前T/B 積送品 8,700 - 当期積送高 7,200 = 1,500

\*9 7,200 ÷ 900 個 × 180 個 = 1,440

※積送諸掛費を控除した金額で積送品売上を帳簿上測定している場合、損益計算書上の積送品売上高も、積送諸掛費を控除した金額で計上されることになるため、決算修正仕訳などを作成する必要はない。また、貸借対照表の「商品」勘定には、手許商品と積送品両方の原価が含まれるため、手許商品だけを書いてしまうことのないよう、気をつけてもらいたい。



### (3) 商品評価損の計上

(借) 商品評価損	527 <sup>*6</sup>	(貸) 繰越商品	527
-----------	-------------------	----------	-----

\*6 【図表-II】参照

#### 【図表-II 商品評価損の推定】

原価@8.0千円	<b>商品評価損 527</b>		<b>棚卸減耗費 —</b>
正味@7.775千円	B/S 手許商品		
正味@4.525千円	12,433		
	良品数量	実地数量	帳簿数量
	1,570個	1,620個	1,620個
	品質低下品 50個		

## 2. 当座預金

### (1) 銀行勘定調整

#### ① (1) 売掛金の入金未通知

(借) 現金預金	2,000	(貸) 売掛金	2,000
----------	-------	---------	-------

#### ② (3) a. 未渡小切手

(借) 現金預金	1,000	(貸) 買掛金	1,000
----------	-------	---------	-------

#### ③ (3) b. 未渡小切手

(借) 現金預金	10,000	(貸) 未払金	10,000
----------	--------	---------	--------

#### ④ (4) 利息引落しの未処理

(借) 支払利息	500	(貸) 現金預金	500
----------	-----	----------	-----

## 3. 社債

### (1) 期中の仕訳(クーポン利息の支払)

(借) 社債利息	7,500 <sup>*1</sup>	(貸) 現金預金	7,500
----------	---------------------	----------	-------

\*1 額面 250,000 × クーポン利率 3% = 7,500

### (2) 償却原価法の適用

(借) 社債利息	5,940 <sup>*2</sup>	(貸) 社債	5,940
----------	---------------------	--------	-------

\*2 前T/B 224,005 × 実効利率 6% - クーポン利息 7,500 = 5,940.3 → 5,940 ※千円未満四捨五入

### (3) 社債発行費の償却

(借) 社債発行費償却	1,500 <sup>*3</sup>	(貸) 社債発行費	1,500
-------------	---------------------	-----------	-------

\*3 前T/B 社債発行費 6,000 ÷ 残存償還期間 4年 = 1,500

## 4. 売掛金

### (1) 換算差額の計上

(借) 為替差損益	75 <sup>*1</sup>	(貸) 売掛金	75
-----------	------------------	---------	----

\*1 15千ドル × CR 90円/ドル - 帳簿価額 1,425 = -75

## 5. 固定資産

### (1) 減価償却費の計上

#### ① 建物(旧定額法)

(借) 減 価 償 却 費	2,250	*1	(貸) 建物減価償却累計額	2,250
---------------	-------	----	---------------	-------

\*1 (取得原価 75,000 - 残存価額 7,500) ÷ 耐用年数 30 年 = 2,250

#### ② 備品(定率法)

##### a. 期首分

(借) 減 価 償 却 費	4,374	*2	(貸) 備品減価償却累計額	4,374
---------------	-------	----	---------------	-------

\*2 (取得原価 30,000 - 減価償却累計額 14,706) × 償却率 0.286 ÷ 4,374 (千円未満四捨五入)

取得原価 30,000 × 保証率 0.0868 = 2,604

4,374 > 2,604

∴ 4,374

##### b. 期中取得分

(借) 減 価 償 却 費	833	*3	(貸) 備品減価償却累計額	833
---------------	-----	----	---------------	-----

\*3 取得原価 10,000 × 償却率 0.5 × 2 ヶ月 ÷ 12 ヶ月 ÷ 833 (千円未満四捨五入)

取得原価 10,000 × 保証率 0.1250 × 2 ヶ月 ÷ 12 ヶ月 ÷ 208 (千円未満四捨五入)

833 > 208

∴ 833

なお、前T/Bの備品は

期首分 30,000 + 当期分 10,000 = 40,000 となる。また、これにより貸借差額で新株予約権が求められる。

## 6. 減損損失の認識・測定

### (1) 減損損失の認識の判定及び測定

#### ① 減損の兆候

減損の兆候あり → ②へ

#### ② 減損損失の認識の判定

	帳簿価額	>	割引前将来CF	→	
建 物	*1 50,250		40,000		減損損失を認識する → ③へ

\*1 取得価額 75,000 - 期首減価償却累計額 22,500 - 当期減価償却費 2,250 = 50,250

#### ③ 減損損失の測定

回収可能価額：正味売却価額と使用価値のいずれか高い方

正味売却価額：34,000

使用価値（割引後将来キャッシュ・フロー）：33,460

∴ 回収可能価額は、34,000

建物に対する減損損失：帳簿価額 50,250 - 回収可能価額 34,000 = 減損損失 16,250

## 7. リース

### ①×19年4月1日(リース取引開始日) ※未処理

(借) 備品(リース資産)	7,699	(貸) リース債務	7,699
---------------	-------	-----------	-------

リース料総額の割引現在価値  $1,705 \div (1+3.5\%) + 1,705 \div (1+3.5\%)^2 + 1,705 \div (1+3.5\%)^3$   
 $+ 1,705 \div (1+3.5\%)^4 + 1,705 \div (1+3.5\%)^5 \approx 7,699$  ※その都度四捨五入  
 7,764 (見積現金購入価額) > 7,699 (リース料総額の割引現在価値)  
 →7,699(リース料総額の割引現在価値)でリース資産・リース債務を認識する。

### ②×20年3月31日(リース料支払日)

(借) リース債務	1,436	(貸) 現金預金	1,705
支払利息	269		

リース債務  $7,699 \times 3.5\% = 269.465 \rightarrow 269$  ※四捨五入  
 年間リース料  $1,705 - \text{支払利息 } 269 = 1,436$

### ③×20年3月31日(決算日)

(借) 減価償却費	1,540	(貸) 減価償却累計額	1,540
-----------	-------	-------------	-------

## 8. 有価証券

### (1) A社社債(その他有価証券)

#### ① 時価評価

(借) その他有価証券評価差額金	750 *1	(貸) その他有価証券	750
------------------	--------	-------------	-----

\*1 時価 14,250 - 帳簿価額 15,000 = -750

### (2) B社株式(その他有価証券)

(借) その他有価証券	1,000	(貸) その他有価証券評価差額金	1,000 *2
-------------	-------	------------------	----------

\*2 時価 7,000 - 帳簿価額 6,000 = 1,000

### (3) 関係会社株式 **StepⅢ**

(借) 関係会社株式評価損	3,000 *3	(貸) 関係会社株式	3,000
---------------	----------	------------	-------

株式の実質価額 = 発行会社の期末純資産額  $10,000 \times 30\% = 3,000$

取得原価  $6,000 \times 50\% = 3,000 = \text{実質価額 } 3,000$

→著しい低下に該当→減損処理を行う

\*3 関係会社株式実質価額  $3,000 (= \text{期末純資産 } 10,000 \times \text{持分比率 } 30\%) - \text{帳簿価額 } 6,000 = \Delta 3,000$

## 9. 新株予約権

### (1) 新株予約権の失効

(借) 新株予約権	600	(貸) 新株予約権戻入益	600
-----------	-----	--------------	-----

## 10. 貸倒引当金

### (1) 貸倒引当金の計上

(借) 貸倒引当金	64 *1	(貸) 貸倒引当金戻入益	64
-----------	-------	--------------	----

\*1 期末売掛金  $9,305^{(*2)} \times 2\% = 186.1 \rightarrow 186$  ※四捨五入

∴  $186 - \text{前T/B 貸倒引当金 } 250 = \Delta 64$

\*2 前T/B  $10,000 + \text{委託品 } 1,380 - \text{入金未通知 } 2,000 - \text{為替換算 } 75 = 9,305$

## 11. 任意積立金の取り崩し

(借) 任意積立金	5,000	(貸) 繰越利益剰余金	5,000
-----------	-------	-------------	-------